



ケニア国内のお得な旅行情報を定期的にお届け！

サファリの鉄人ニュース

2025 8月
Vol.2

ナイロビは寒い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。6月に続いて第2号となる今回は、外国人観光客でごったがえす主要な公園はあえてスルーして、レジデントならではの「安・近・短」な休暇先を取り上げます。調子の悪かったスマホも新調したので、旅行相談はお気軽に！

1. Report 苦勞せずにクロサイに出会える場所

ケニア北部にある「ソリオ」という保護区の存在は随分前から気にはなっていたものの、キタシロサイやチンパンジーを擁するオルベジェタに比べるとやや地味で何となく足が遠のいていました。今回はイースターの連休を利用して下見に行った際に得た最新情報をお届けします。

牧場からサイの楽園へ

45,000エーカーという、山手線の内側3つ分に相当する広大な牧場だったこの場所に当時絶滅に瀕していたクロサイの保護区が作られたのは1973年。以来、ソリオは民間によるサイの繁殖プログラムの成功例として広く知られてきました。現在はその敷地の1/3が保護区として指定され、「黒・白」併せて200頭以上のサイが暮らす楽園になっています。

自家用車でアクセス可能

今回は家族旅行だったので自家用車（二輪駆動）でアクセスできる保護区外のライノロッジをあえて選びました。ここは宿泊費が一年を通じて一定なので、思い立ったらいつでも行けるのが利点です。ちなみに私も泊まったシャレールーム（右）だとレジデント価格は外国人向け料金のほぼ半額の21,000シリング（1部屋あたり3食付）。またオーナーがドイツ人だからなのか、内装や食事内容にセンスを感じました。肝心のサファリについては追加代金でロッジに申し込むことができます。私は半日コースを選択し、1台あたり18,000シリングでした。ドライバーさんも親切で、半日はずが正午すぎまでライオンを見せようと頑張ってくれました。



北部ケニアの動物相

地方都市ニエリの町から30分という距離にもかかわらず、そこに暮らす動物は北部ケニアの代表選手ばかり。サイはもちろんのこと、晴ればケニア山を背景にアミメキリンやオリックスも見られます。保護区の中にある宿は長年、ラグジュアリーなソリオロッジだけでしたが、今年中にJWマリオットが（隣接地に）進出する予定なので注目度はさらにアップするでしょう。帰りはケニア山の麓のナロモルに立ち寄って、新鮮なニジマスのお刺身（右）を食べるのを忘れなく！



2. Quiz サファリクイズ ※答えは次ページ

ケニア野生動物公社（KWS）も認めるプロサファリガイド試験の過去問を今回は拡大してご紹介！

Q1. カバが水中で息を止めていられる時間は以下のうちどれ？

- A 5分間
- B 9分間
- C 12分間
- D 15分間

Q2. 次のレイヨウ類のうち岩場等の生息環境に特化しているのはどれ？

- A オリビ
- B ディクディク
- C ダイカー
- D クリップスプリンガー

Q3. 次の鳥のうち直径1mを超えるドーム型の巣を作るのはどれ？

- A サンショクウミワシ
- B シュモクドリ
- C ハシビロコウ
- D ハイイロペリカン

3. Offer ナイロビ国立公園半日パック



首都の中を野生のライオンが闊歩しているのは世界広しといえどもケニアだけ！117km²という広さの割には過小評価されがちなナイロビ国立公園ですが、チーターの目撃例も増えているため決して侮れません。楽しむコツとしては朝早く行くこと（メインゲートから朝日が見える）、無線を積んだサファリカーで人気動物の位置を把握すること、朝食を兼ねること、ゾウの孤児院見学をセットにすること（毎日11時開園）などです。通常期の半日レンタル代金はこちら（Ksh、入園料ご自身払い）。この週末に“ちょこっとサファリ”はいかがですか？

車種	ハイエース	ランクル
KWSメインゲート発着	18,000	22,000
市内送迎付き	20,000	24,000

※ホテルのボックスブレックファストは3,500Ksh/人で追加可能

4. Report 死の湖でモバイルキャンプ@マガディ湖

近づく生き物を石化してしまうというタンザニアのナトロン湖。その弟分ともいえる湖が国境を挟んでケニア側にあることはあまり知られていません。一年を通じて気温が高く、道なき道を進む箇所もあるため、今のような涼しくて雨の少ない時期に行くのがベストと言えます。今回は9年前に私が行った時の話を紹介します。

ピンクの湖と炎の鳥

マガディ湖はナイロビから車で3時間ほど、田舎町のロンガイやキセリアンの先にあります。四輪駆動車で途中、2,000メートル級の峠を越えた後はひたすら高度を下げながら砂地の悪路を進むと、やがて湖が見えてきます。この湖水は時にピンクに染まることがあり、その色はラン藻という原始的な植物の大量繁殖によって引き起こされます。このラン藻はフラミンゴ（ラテン語で炎という言葉に由来）の主食でもあり、彼らの美しい体色の一因となっています。実はこの一帯は工業的にも重要で、石鹼やガラスの原料になる炭酸ナトリウムが大量に堆積しているそうです。現在はインド系のタタ・グループが採掘プラントを稼働させていて、湖に向かう途中ではその敷地の一部を通過させてもらったり、彼らのスタッフ詰所に立ち寄って冷えたビールを分けてもらうこともあります。



荒野の真ん中にキャンプ設営

人里離れたマガディ湖の周りにはこのプラント以外に目ぼしい建物や施設はありません。日帰りではこのエリアの魅力を満喫できないと考えた我々は、一方で快適さも欲しかったため、業者に頼んでプライベートキャンプの設営を手配しました。湖畔に到着後、ビールを飲んでいるとあっという間に就寝用のテント、食事用の大型テント、トイレ、お湯シャワーまで備える“絶景ホテル”が完成。かかわったスタッフはシェフやドライバー、マサイ族の警備員を含めて総勢7名でした。リークのスープや白身魚のフリッターなどのディナーを終え、夜は星空を眺めながら近くにある天然の温泉に浸かりました。翌朝はちょこっとサファリをして、2種類のフラミンゴに加えて、ヌーやグラントガゼル、ペリカンなどを見ました。キャンピングの手配は大勢で行くほうが割安になります。費用や行程についてはお気軽にご相談ください。



オロルゲサイリー遺跡で先祖に出会う

キャンプを畳んでナイロビへ向かう途中、こちらを知る人ぞ知る60万年前の石器が出土する遺跡に立ち寄りしました。当時この辺りは巨大な湖で、湖畔にはホモ・エレクトウス（原人の一種）が家族で暮らしていたそうです。彼らの豊かな狩猟文化を示す証拠として、大量の石斧（ハンドアックス）と共に当時の大型動物の骨が同じ地層で見つかるそうです。園路の横に転がっていた石斧を拾うと当時の祖先と交信できたような気がしたので持って帰ろうと思いましたが、スミソニアンとナイロビ博物館の所有物にあたると言われたので諦めました。学芸員も常駐しているようなので行く前に連絡を入れておくといいですよ。



お問い合わせ・無料旅行相談は Naturesurf Africa Safaris 井村 まて

e-mail: imura@naturesurfafrica.com
URL: <https://safari-geek.com/>

TEL: +254-793961322 (WhatsApp)
Line ID: 1muran

バックナンバーはこちらのURLから
<https://safari-geek.com/newsletter/>

※記事の無断転載を禁じます

サファリクイズの答え：Q1-A、Q2-D、Q3-B